



初午を終え新たな幟の立った稲荷堂

『四摂法』

泰忍 弘

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤真弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋 潔・高橋利春
屋代 健・飯泉隆史・太田匡哉
山内芳次・近藤龍弘・近藤マリ子
近藤久美子

印刷・株式会社印刷



ホームページ



インスタグラム

ご家族の皆さままでご覧下さい

昨年から今年にかけて今まで経験したことのない小雪で長岡の冬にしては青空も多く過ごしやすき気候でした。元旦も青空で穏やかなお天気。年始にお出でになった方々ともこんなに過ごしやすい元旦は珍しいですね！なんて喜んでいたところ突如起こった大地震。屋内にいた私も徐々に揺れが大きくなり子供と共に屋外に逃げ出しました。

外に出ると玄関先の櫻や松の木は大きく揺れ、本堂もグラグラと揺れており、地震の凄さを改めて感じました。幸いにもお寺は本堂の仏具が少し倒れた程度で大きな被害はございませんでした。ただテレビでは長岡市も震度六を超えたと報道され多くの方々からご心配のご連絡をいただきました。

北陸全体を襲った地震ですが、特に石川県能登地域の被害は甚大で多くの尊い命が失われました。亡くなった方々のご冥

福をお祈り申し上げますと共に被災地の復興を心からご祈念申し上げます。

平成七年に起こった阪神・淡路大震災以降、災害が起こるとボランティア活動が毎回注目されます。私も大本山總持寺に修行中、平成十六年七月の新潟県での水害に修行僧十数名で十日間ほどボランティア活動に携わったのが最初でした。その際もボランティア用の広大な駐車場が埋まるほどの多くのボランティアの方々が復興の手伝いをされています。夕方ボランティアの方々が駐車場に向かう行列は優に百人を超え自身もその中におりましたが何とも言えないありがたい気持ちになったのを覚えています。

修証義のお経に「四摂法」という教えがございます。「布施」「愛語」「利行」「同事」です。簡単にご説明させていただきます。「布施」とは見返りを求めず

に施すこと。
「愛語」とは慈愛の心を持ち、相手のことを想い言葉を発すること。
「利行」とは相手と自分を区別することなく共に救われ、心安らかになる行い。

「同事」とは相手の悲しみや苦しみに寄り添い、互いの立場を超えて和合すること。
四摂法はまさにボランティアに通ずる教えです。

この度の地震では輪島市の大本山總持寺祖院も多大なる被害を受けました。本年は總持寺御開山瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌の年です。この七〇〇年總持寺祖院も幾多の困難や災害から復興してまいりました。

總持寺祖院を含め多くの被害に遭い今も困難な生活を余儀なくされている皆様に対して、少しでも多くの人が四摂法の教えの如く、被害に遭った方々の心に寄り添い復興の一助になることを願います。



連載第二回

安善寺の歴史

昌興寺住職

石田 哲彌

(新潟県文化財保護連盟理事)

【2】蔵王堂の蔵王権現別当 安禅寺

と神田の安善寺、普濟寺の關係
(1)長翁存(昌)宗禪師来越、栖吉の普濟寺に入る。その後、神田安善寺を建立。安善寺の歴史は天文6年(1537)の千葉県香取郡伊能村(現香取郡大栄町)の長興院住職、長翁存(昌)宗禪師が布教教化(布教線拡大のために越後に入り、栖吉の栖吉山普濟寺の住職となり、その6年後の天文12年(1543)に神田に安善寺を建立し、その開山となったことに始まる。

江戸時代の禅宗教団の主流は曹洞宗教団である。曹洞宗は「只管打坐」をもっぱらとし、坐禅修行に励む一方、各地において曹洞禅の大衆の民衆化(教化)運動を展開して



栖吉の普濟寺

いた。そして、彼らが第一に着手したのは寺院の開創・建立であった。

室町時代に入ると越後の曹洞禅の一大拠点が成立する。傑堂能勝による耕雲寺の創建である。また南英謙宗による村松の慈光寺、そして顕窓慶字は魚沼の雲洞庵を創建するなど、各地で活発に活動を展開した、それに呼応するかのようには、下総(千葉)の曹洞宗通幻派の禅僧、長翁存(昌)宗が中央にも名の聞こえた臨濟宗の名刹、普濟寺に入り、曹洞宗に改宗、中越地方の禅宗の拠点として活動を展開した。

長翁存宗和尚は通幻派一庵系の別派で、下総総寧寺一相模海蔵寺一常陸松学寺一常陸管天寺の流れを

くむ曹洞宗の有力な一派であった。

普濟寺はかつては越後守護上杉家の祈願所とされて庇護された名利。その寺領は塔頭の領域を含むと12万500刈。つまり12万5千石で、北陸の霊場と称された蔵王権現の10万1千石、栖吉長尾氏の5万1千石をはるかに凌(しの)ぐ多くの寺領を有し、強大な勢力を誇っていた。

しかし、守護の上杉家が長尾為景に滅ぼされてから、その勢いを急速に失い、古志郡司、栖吉長尾氏の支配化に入り、城主との関りあいを深めていった。

こうした時期、天文6年(1537)に長翁存(昌)宗が千葉県香取郡の長興院から普濟寺に入り、臨濟宗から曹洞宗に改宗。新たな普濟寺の中興開祖となったのである。

なお禅師の名称を長翁存(昌)宗と表現したのは、普濟寺では長翁昌宗、末寺の安善寺では長翁存宗と過去帳に記載されているからである。以降は長翁存宗と表現していく。

(2)長翁存宗禪師の活躍
存宗禪師が普濟寺に入った天文

6年(1537)は、守護上杉家を滅ぼし、越後に下剋上を起こした英雄、上杉謙信の父、為景が病床に付し、家督を息子の晴景に譲つた時期であり、越後国内が混沌としていた時期でもあった。中越においては古志郡司、古志長尾氏が信濃川河畔の物流の拠点、蔵王堂の蔵王権現境内に蔵王堂城を築いて隆盛を誇っていたが、戦争が激しくなるに従い、南部の東山連峰の一角、栖吉山に砦(山城)を築き、その山城を軍事拠点とするようになっていた。

以降、古志郡司、古志長尾氏を栖吉長尾氏とも呼ぶようになった。これは守護代、長尾氏が直江津の国府に政治の中心をおき、春日山城に軍事拠点を置いたと同様な方式になつたものである。

ここに栖吉山に栖吉城(軍事拠点)、麓には名利普濟寺という構図が出来上がったのである。

長翁存宗禪師が栖吉城の麓の普濟寺に入ったのは栖吉長尾氏の要請であつたかどうかは不明であるが、普濟寺が越後における臨濟宗

の名利であり、中越における曹洞宗普及の拠点としてふさわしいことから、早くから注目されていたことは十分に考えられる。

かくして栖吉山普濟寺は長翁存宗禪師を迎えて再出発したのである。こうしたことから普濟寺過去帳には、長翁昌宗禪師を長興院(千葉)二世、普濟寺開山としている。

次回 (3)「栖吉城主、長尾為景と長翁存宗禪師」に続く



本堂と鐘樓堂

安善寺さま、むかし昔のおはなし【その二「深い沼」】

西神田町 石塚 寿一

「深い森」の「深い沼」。何かお化けでも出そうな話になつてきました。

しかし、ご安心下さい。それは、数百年もむかしの事です。現代の安善さまは、境内を昼でもなお暗くしていた樺の巨木は、ほとんど伐採されて、すっかり明るくなりました。さらに、二三年前に、境内の東側に、近代的な庭園風の樹木葬墓地、名づけて「翠緑の小径」が完成し、おしゃれな現代風の庭園墓地が誕生しました。墓地は墓場とも言つて、昔から、一般的には、暗く悲しみの場所でしたが、現代の風潮は、墓地は、一転して、もつと明るく楽しい場所になりました。と変身しつつあるようです。

過去へ遡つて、安善さまの、原初の、神秘的な姿がどんなものであったかを、探つてみたいのです。

そこで登場するのが、知る人ぞ知る、「三盃池」という「深い沼」のお話です。「三盃池」とは、明治の始め、越路町「浦」出身の有能かつ行動的な新聞経営者で、しかも優れたジャーナリストセンスと才能を持った「大平与文次」編集の苦心の大労作、「温故の葉」に取り上げられてお話しします。参考までに、「三盃池」の「位置」とか「場所」は、しばしばあった大洪水で、さまざま変遷をたどつてはいますが、現在の安善さまの境内北側にある「広い駐車場」が、古地図によれば、江戸時代の末期では、ほぼそのまま、三盃池の「形」と「位置」でした。

過ぎたかもしれず、すみません。以下：

「古志郡（明治24年頃、新潟県なごの「県」はまだ無くて、長岡は古志郡でした。）長岡神田町、民家の北裏に、三盃池と言わる（池）あり。
享保の頃（徳川八代将軍、吉宗の時代です。享保元年（1716）から享保21年（1736）まで続きました。その頃）まで（は）、「毒蛇」（本当の毒を持った蛇ではないと思ひます。実際は2メートル前後の大型化したシマヘビだったのではないでしようか。）棲み、折々、人畜を害す。（人が棒などで「かまう」と、自分が襲われると判断し、逆に口を大きく開けて牙をむき、立ち向かつてくるような大きな蛇だったのではありません。さらに、小動物などが、水飲みなどで岸辺に近付くと、引きずり込んで、とぐろで、ぐるぐる巻きにして絞めて、呑み込んでしまうこともあったのだと思ひます。）
長岡藩士（長岡藩の家臣の武士）山本「某」（姓は山本だが名前はわからない。）主命（使われている家の主人、上司の命令）を受け、退治せし（多分、長い棍棒か槍で大蛇を水中から引き出し、槍か刀で仕留めたのでしよう。これが、享保21年、1736の事。）以来、逐次（次第に）、水濁れて（水が無くなるほど少なくなつて）、今は形計り残り。（大蛇の隠れていた池の深みが、次第に落ち葉などで埋められ全体に浅くなつてきたのでしよう。）
この水にすめる、魚鱈（さかな、かめ、すっぽん）は、何れも片目にして、毒あり。故に喰らうものなし。（すべて片目であつたというのは、話を面白くするための、多分、誇張。本当に食べた人がいるかどうかはわかりません。毒はないけれど、きつと非常に不味かつたのでしようね。）
昔より、彼池の傍へ（かたわら）に臨み（岸辺で）、サンバイサンバイと唱うれば、（おおきな声で、万歳三唱のように叫ぶと、空気が振動が起つて水面が振動する。）水波頓に暴る。（池の水が激しく波立つたこと。）
今、尚ほ試すに、（その時代でも、同じことをすると）水底より、がぶがぶと、泡立りと言う。（大量の落ち葉などの、腐葉土の「腐敗発酵」の盛んな池なので、「メタンガス」が常にブクブクと泡立つていたのだと思ひます。）

以上ですが、如何でしようか。原文は太字で示し、たくさん注意書きもつけましたので、意味はお判り頂けると思ひます。

この三盃池の「形」や「寸法」は、江戸時代末期の確定的なもの、前述しました通り、慶応年間発行の古地図に正確に描かれています。そのさらに以前の地図には、「湿地」や「池」は、呉服町郵便局前の通り（昔は「間の道通り（？）」と言つた）も含めて、「お蛸座稲荷さま」の敷地も、「湿地」や「池」であつたと思われまふ。そして深いところは、「深サ、五尺」との記述があります。すなわちその昔は、五尺（1メートル50センチ）も深いところもあつたのです。大蛇も棲める深さです。

さて今回は、少し怖くて固いお話しになりました。機会あれば次回からは、安善さまの、昔の「花などの植物たち」や「轉る小鳥たち」や「すばしっこい小動物たち」などのソフトなお話しにしたいと思います。

ここで、「温故の葉」について付け足します。前回（本誌1月号）の「大沼城」については、前に述べた本の、同じく上巻、337（338頁に、「大沼の古城蹟」と題して詳しい紹介があります。筆者の原稿もすべてそれに依存しています。

シリーズ
旅に
行きたい!!
第10回

6/27(木)
29(土)

曹洞宗大本山總持寺 御開山太祖瑩山禪師七〇〇回大遠忌 参拝と母畑温泉の旅

新潟ビーエス観光 飯泉 隆史

今年には新年早々能登の大地震に見舞われ大変な年となりました。能登地方にも多くの曹洞宗の寺院があります、

中でも鶴見にある大本山總持寺の祖である輪島市門前町の大本山總持寺祖院では、人的被害は免れましたが、建物や境内各所に多大な被害を及ぼしました。平成十九年の地震被害から十四年にもおよぶ耐震保存復興修理工事を経て復興し、開創七〇〇年を迎えま



千客万来

した祖院ですが、再びのこのような惨事に心を痛めます。一日も早い復興を願うばかりです。

また観光でよく訪れる輪島の朝市もメインの通りは全焼し、農業遺産の白米千枚田も大きな地割れがあり、多大なる被害が発生しました。今また災害に遭い、復興しない被災地はありませんでした。また復興した際には是非とも支援の旅を計画したいと思



大祖堂内観

ます。今年一月に大本山總持寺様に新年のご挨拶をビーエスグループとして伺いました。そこで禪師様ともお話をさせていただきました。

洞宗としても多大な被害ではありましたが、本年の瑩山禪師の七〇〇回大遠忌は変更なく進める方向で沢山のお檀家さんにお参りしていただきたいとの事でした。ご本山もこの度の遠忌に合わせて改修工



母畑温泉

事を進めてきました。皆様におきましても是非總持寺様の七堂伽藍を拝観し、太祖瑩山紹瑾禪師にお参りしていただきたいと存じます。

この『旅に行きたい!!』シリーズでも何度かお話をしておりますが、来る本年六月二十七日(二十九日の三日間、瑩山禪師七〇〇回大遠忌大本山總持寺参拝と母畑温泉の旅を計画しております。前回の季刊誌と一緒にチラシも同封しております。是非皆様お誘いあわせの上、ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

今回の旅行の一日目、豊洲市場での自由昼食となっております。二月一日に豊洲市場におきまして先客万来という食事のテーマパークがオープンしました。ここでは百円から食べ歩きできるおせんべいなどのものから一万円もする超高級うに井などバラエティに富んだ七十店舗以上のお店が並び、今まさに大変賑わっています。最近テレビなどでもよく流れていますので、行く前にお店をチェックして是非とも有意義なランチにしてい

ただければと思います。

大本山總持寺様での宿泊などもあり、緊張される方もいらっしゃるかと思いますが、一度お泊りいただければその価値を味わっていただけたらと思います。本山ではもちろんお酒は飲めませんが、あまり食する機会がない精進料理や、法話を聞いていただいたり、大変大きな本堂の大祖堂でお経を聞いたり、ご焼香していただいたりと、普段では体験できないことばかりです。どうぞ気を楽に持ちご参加ください。

また今回二日目に宿泊する母畑温泉は、二〇二一年にブ口が選ぶ宿で全国一位を取っています。

個人的には和倉の加賀屋より好きかもしれません。吹き抜けの建物は壮観で、泉質の良い温泉と質の良い料理にきつと満足していただけることでしょう。今年も旅に出かけましょう！

■旅のご相談・お申し込みは
新潟ビーエス観光まで

TEL 0258-34-4848

【寄稿文】

『雪まつりの思い出』

阪之上小学校五年 近藤 悠真

僕の学校では毎年雪まつりという行事があります。

中越地震で山古志小学校が大きな被害を受け、阪之上小学校に避難してきたことから山古志小学校との交流が始まりました。

雪まつりでは塞ノ神というわらを積み上げたものの中に習字を入れます。塞ノ神の火が高く上がると願い事が叶うというものです。

僕は雪まつりではじめの言



山古志小と合同の塞ノ神



燃えた塞ノ神で焼くたくさんのスルメ



「燃～えろよ燃えろ♪さ～いの神」



健康を願って顔に墨を

葉と司会をしました。全校の前で話したのでとても緊張しました。しかしうまく言葉が言うことができたので良かったです。

塞ノ神の周りを踊るときに僕は飛んできた墨を顔にたくさんつけました。墨をつけることで一年中健康に暮らすことができます。

塞ノ神の火がおさまってきたときに六年生がスルメを焼きます。そのスルメをクラスごとに分かれて食べるのです。前は甘酒もあったのですがなくなってしまうました。他にも雪まつりでは山古志小学校との仲を深めるために一緒に給食を食べたり、全校で遊んだりもします。

僕が特に楽しかったことははじめの言葉と司会です。理由は全校の前で話す機会はありませんのでそれに挑戦することができたからです。

来年は阪之上小学校で最後の雪まつりなので今回の雪まつりよりも仲が深められる、最高に楽しい雪まつりにしたいです。

今、山古志の人たちが復興したように能登半島地震で被害を受けた人も復興できることを願っています。

安善寺よろず掲示板

『寺行事予定』

三月十五日 十一時～

涅槃会 団子まき

十七日 十時半～

彼岸入り法要

二十日 十時半～

彼岸中日法要

二十三日 十時半～

彼岸明け法要

五月五日 十二時二十分～

花まつり(大手通り)

六月十二日 十時半～

大般若会

六月二十七～二十九日

団体参拝旅行



安善寺 庭園型樹木葬 『翠緑の小径』

- お墓に樹木葬墓地で御法要
- お墓に樹木葬墓地で御法要
- お墓に樹木葬墓地で御法要
- お墓に樹木葬墓地で御法要



【お問合せ】株式会社 放光
フリーダイヤル 0120-811-112

安善寺 樹木葬墓地ご案内ページ
<https://anzenji-jyumokusou.com/>



仏さまのおすそわけ 数珠つなぎフードパントリー

～誰ひとりとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ～

食材や日用品の提供にご協力ください！！



* 詳細はお寺にお尋ねください *

主催：長岡市仏教会青年部

協力：新潟県フードバンク連絡協議



正月に起きた地震、被災地でのペット仲間たちも

頑張つてほしいにゃんこ！



この冬は少雪だったのでペランダ散歩を思う存分楽しめました。そんな私とは反対に、真人君と悠真君は市営スキー場に行けず、がっかりしてしまいました。冬の間は運動不足になりました。冬の間は運動不足になりがちですが、真人君はバスケ三昧でスリムな体型。一方悠真君は長い間頑張っていたサッカードを辞めてしまったこともあり、学校からの体重測定で肥満気味とされてしまったのです。しかし彼は一



仲良く一緒にアンとビビ

念発起、ダイエットを開始し今や7キロも減って記録更新中！しかも冬の運動不足解消のためにもテニスを習い始めました。例年なら雪がまだ残っているはずのこの時期に外でテニスの練習ができるなんて驚きです。このまま地球温暖化ならぬ地球沸騰化なんてことにもなってしまうたら、自慢の毛皮を丸刈りにされてしまいそうです。そんな少雪よりも驚かせら

れたのが正月に起きた地震です。初めて体験する大きな揺れにビビも私も一目散にベッドの下へ潜り込みました。地震がおさまってから久美さんが私達を探して名前を呼んでくれるのですが、怖くて長い間出られませんでした。チップを埋め込まれている私たちですが、家猫で外の世界を知らないのに外に飛び出したらおそらく家に帰ってこれないでしょう。心配した久美さんは私たちに首輪を探してくれるそうです。備えあれば憂いなし。家族でもう一度防災グッズ、避難場所の共有を再確認です。

今回の地震で被災された方々に一刻も早く、普通の日常“が戻りますようお祈り申し上げます。

そして被災地でのペット仲間たちも頑張つてほしいにゃんこ！

編集 雑感

今年もよろしくお願ひ致します。編集委員の屋代です。

元旦早々、大きな地震がありました。その時、家族で弥彦神社に初詣に行っていました。天気も良く、大勢の人が並んでいて、ちょうど神社にお参りをする直前に、横揺れで建物がミシミシと鳴って、長らく揺れていました。その後、携帯で地震の情報を確認しましたら、能登半島で地震、マグニチュード7.6、石川県で震度7、長岡で震度6弱でした。

その後、津波警報が新潟県沿岸に出ました。まもなく、県外の友人から安否確認の連絡がありました。震度の大きさに、自宅が心配になり、先ず、母に連絡し、直ぐに自宅に帰りました。

自宅は増築部分の境界に多少の被害がありました。震度の割には、被害はそれほどありませんでした。

その後、能登地方の情報がテレビで報道されるたびに、被害の状況に愕然としました。道路、海岸の状況をみると、地震の揺れの大きさが想像できません…。千年に一度の活断層のズレとの報道もありました。

ちょうど20年前に、中越地震があり、各地で被害が出ましたが、この度の能登半島地震の被害は尋常ではありません。

被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

今後大きい地震がいつどこで起こるか分かりませんので、避難準備、災害対策を家族で改めて確認したいと思います。

(屋代 健)

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります